

[機構について](#) > [情報提供活動](#) > [動画で見る企業事例「企業未来！チャレンジ21」](#) > [2003年放送分](#) > 10月4日放送分 伝統の技+今=新しい商品 ~有松絞り・挑戦するパイオニアたち~

10月4日放送分 伝統の技+今=新しい商品 ~有松絞り・挑戦するパイオニアたち~

10月4日(TX・TVO・TSC)

5日(TVA・TVH・OX・TVQ・RCC・TVQ・OTV)

6日(BSJ)

年々厳しい状況に置かれている日本の伝統産業の活性化のため、愛知県の有松・鳴海絞り産地の職人達が立ち上がった。彼らが設立した(有)シボリドットコム有松(資本金300万円、従業員数3名)は、従来の繊維をベースとしたものづくりという固定概念を取り払い、『絞り』のデザイン性を生かした様々な商品を開発している。伝統技術とそれを生み出した地域風土を大切にしながら伝統産業活性化の道を探る同社の取り組みを紹介する。

伝統の技+今=新しい商品

~有松絞り・挑戦するパイオニアたち~

[視聴覚教材No. TV15-27](#)



名古屋市緑区有松町にやってきた志垣さん。ここでは着物などに使われる有松絞りで有名な町。

絞りの技術を使い、新しい製品を作っている(有)シボリドットコム有松を訪ねる。こちらが永井社長。実は永井社長はもともと米屋さん。





産地の職人とお米屋さんの3人が集まり、インテリアなどの住・生活空間の分野でのモノづくりに挑戦している。

縫った布を絞り、染めて、糸を抜くと、きれいな模様ができる。これが伝統的な「絞り」。



板ガラスを炉に入れ、絞りの生地からとった砂の型に、溶けたガラスが入ることによって出来たのがこの商品。

絞りアーティストの早川氏は「古い技法を使いながら、今という息吹を吹き込むことによって新しいものが出来てくる。」と話す。

POINT: 古い技術 + 今 = 新しい商品



「資本が多くはないので、大量に作って売るのではなく、1つ1つ作っていく。これが



我々の製品が活かされる道だ。」と語るシボリドットコム有松の3人(左から永井社長、村瀬氏、早川氏)。

名古屋の飲食店で採用された3m x 4mの大きな作品。不思議な空間を演出している。



空間デザインを専門としている熊谷社長は対談の中で、「最近では感性的なものが重視されるようになった。そうしたことが新たな可能性を産み出していくのではないか。」と語る。



伝統ある技術を生かしたシボリドットコム有松のモノづくりへの挑戦は続く！



[利用規約](#) [法的事項](#) [プライバシーポリシー](#)

Copyright©2007 Organization for Small & Medium Enterprises and Regional Innovation, JAPAN